



# Cisco Business Edition 7000H/M のインストール

---

- 展開の設計 (1 ページ)
- アプライアンスのセットアップ (3 ページ)
- アプリケーションをセットアップする (14 ページ)

## 展開の設計

展開を設計するには、次のトピックを確認してください。

## UC アプリケーションの計画

始める前に:

Cisco Business Edition 7000 サーバがラックにマウントされ、電源およびデータ ネットワークに接続されていることを確認します。手順については、サーバに同梱されている『*Cisco Business Edition* クイック スタート ガイド』を参照してください。以下からコピーをダウンロードすることもできます。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-installation-guides-list.html>

インストールを開始する前に、インストールする UC アプリケーションを計画します。

インストール可能な UC アプリケーションと、Business Edition コラボレーション展開の設計方法については、次のサイトを参照してください。

- *Cisco Business Edition 6000* と *Cisco Business Edition 7000* の共存ポリシー要件：このドキュメントには、Cisco Business Edition 7000 システムにインストールできるシスコの仮想化アプリケーションに関する情報と、それらのアプリケーションおよびサードパーティ製アプリケーションを Business Edition サーバで実行するために満たす必要がある条件が記載されています。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-implementation-design-guides-list.html>

- 仮想化環境でのユニファイドコミュニケーション-この Web サイトには、Cisco Collaboration Virtualization アプリケーションと展開の設計方法に関する情報が記載されています。

<http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration>

- エンタープライズ向けの推奨アーキテクチャ ガイド - 推奨アーキテクチャ ドキュメントと CVD ガイドは、コラボレーションと音声の展開に関する規範的なエンドツーエンドのシステム ソリューションを提供します。設計の概要では、高レベルのベストプラクティスを含む、製品と推奨アーキテクチャにおけるその役割についての基本的な理解が提供されます。CVD ガイドでは、推奨アーキテクチャの実装を効率化するのに役立つ、より詳細な設計および展開の推奨事項が提供されます。

<http://www.cisco.com/go/pa>

- エンタープライズ コラボレーション CVD ガイド : エンタープライズ CVD では、Cisco Business Edition 7000 上に構築されるコラボレーション ソリューションの詳細な設計と段階的な導入情報を提供します。これらの CVD は、推奨アーキテクチャの中核となる推奨事項に基づいており、場合によっては、推奨アーキテクチャの拡張または代替として、より多くのソリューション設計を提供します。

<http://www.cisco.com/go/pa>

- *Business Edition 7000* ソフトウェア ロード サマリー - プリロード サマリー ドキュメントには、サーバのデータストアにプリロードされている ISO ファイルと OVA ファイルに関する情報が記載されています。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-6000/products-release-notes-list.html>

## 必要なネットワーク情報を収集する

インストールを開始する前に、ソリューションに関する次のネットワーク情報を収集します。インストールのために次のネットワーク設定を収集します。

- サブネット マスク (Subnet mask)
- ゲートウェイ IP アドレス
- VMware vSphere ESXi 管理 IP アドレス
- Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の IP アドレス
- UC アプリケーションの IP アドレス
- DNS サーバの IP アドレス
- UC アプリケーションのホスト名
- (オプション) ドメイン名
- NTP サーバの IP アドレス
- タイムゾーン

- (オプション) SMTP サーバ



- (注) Cisco Business Edition 7000 で使用される Cisco UCS C240 M5SX サーバの一般情報については、『[Cisco UCS C240 M5 サーバのインストールおよびサービス ガイド](#)』を参照してください。Cisco Intersight、Cisco UCS Manager、Cisco CIMC Supervisor は、BE7000 アプライアンスの管理をサポートしていません。

可能な構成設定オプションの全範囲については、*Cisco UCS C240 M5* ラックサーバ (小型フォームファクタ ディスク ドライブ モデル) 仕様シート、*Cisco UCS C* サーバのインストールおよびサービス ガイド、[docs.vmware.com](http://docs.vmware.com) を参照してください。

利用可能な物理イーサネット ポートはアプライアンス モデルによって異なります。

- すべての M5 アプライアンス モデルには、*Cisco UCS C240 M5* ラック サーバ (小型フォームファクタ ディスク ドライブ モデル) 仕様シートに記載されているように、マザーボードポートにモジュラー LAN が搭載されています。
- BE7000M および BE7000H モデルには、ネットワーク インターフェイス カード経由の追加ポートが含まれています。どのアプライアンスモデルでも、ネットワーク インターフェイス カードの追加、仮想インターフェイス カードの追加、または含まれるネットワーク インターフェイス カードの変更はサポートされていません。

使用可能な VMware vSphere ESXi 構成設定オプションは、使用されているライセンスによって異なります。アプライアンスが組み込み仮想化ライセンスを使用している場合、VMware vSphere ESXi 分散仮想スイッチ機能は有効になりません。

## アプライアンスのセットアップ

インストールを開始する前に、次のトピックを確認してください。

### 仮想化およびアプリケーションソフトウェアのインストール

このセクションでは、工場出荷時にプリロードされたソフトウェアを使用して、Business Edition 7000 に仮想化ソフトウェアとアプリケーション ソフトウェアをインストールするために実行する必要があるタスクについて説明します。

#### データストアにプリロードされたファイルタイプ

事前に展開された仮想マシンに加えて、Cisco Business Edition サーバには、データストアに事前にロードされた選択されたコラボレーション アプリケーション ソフトウェアが付属しています。アプリケーションのインストールにおけるファイルタイプの内訳は次のとおりです。

- ISO ファイル** - ISO ファイルは、アプリケーションインストールファイル (例: Bootable\_UCSInstall\_UCOS\_12.5.1.10000-22.sgn.iso) を含む DVD イメージです。
 

UC アプリケーションの ISO ファイルは、そのアプリケーションの OVA ファイルにアプリケーション ソフトウェアが含まれていない場合にのみ存在します。
- OVA ファイル** : 各 UC アプリケーションには、仮想マシンをパッケージ化して展開するために使用される Open Virtualization Archive (OVA) ファイルが関連付けられています。Business Edition サーバーの OVA には 2 種類あります。
  - 一部の OVA (例: cucm\_12.5\_vmv13\_v1.0.ova) は VM を定義するテンプレートですが、アプリケーション ソフトウェアは含まれていません。これらのアプリケーションの場合、データストア内に関連付けられた ISO ファイルがあります (たとえば、Bootable\_UCSInstall\_UCOS\_12.5.1.10000-22.sgn.iso)。インストールするには、OVA テンプレートを展開し、関連付けられた ISO ファイルを使用してソフトウェアをインストールする必要があります。
  - その他の OVA ファイルは VM を定義し、アプリケーション ソフトウェアを含みます (例: Bootable-CiscoPagingServer\_12.5.1.ova)。これらのアプリケーションには ISO ファイルはありません。OVA ファイルを使用して VM を展開し、ソフトウェアをインストールできます。

サーバーのデータストアにプリロードされている ISO ファイルと OVA ファイルの詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/%20business-edition-7000/products-release-notes-list.html> でサーバーのプリロードの概要を参照してください。



- (注) Cisco では、OVA-ISO ディレクトリをローカルにアーカイブすることを推奨しています。ハードウェア障害が発生した場合、交換用ハードウェアには工場出荷時のプリロードは含まれません。工場出荷時にプリロードされたソフトウェアが削除、上書き、または失われた場合は、プリロードされたソフトウェアを手動で再構築する必要があります。工場出荷時の状態に復元する機能はサポートされていません。

## Cisco Business Edition 7000H/M のインストール タスク フロー

Cisco Business Edition 7000 サーバにソフトウェアをインストールするには、次のタスクを実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">Cisco Integrated Management Controller を構成する (5 ページ)</a>	Business Edition 7000 サーバ用に CIMC を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	仮想化ソフトウェアの Remote Access をカスタマイズ (7 ページ) 仮想化ソフトウェアの Remote Access をカスタマイズ (7 ページ)	アプライアンスにプリインストールされている VMware vSphere ESXi ソフトウェアを構成します。
ステップ 3	使用されていない、または不要な仮想マシンを削除する (13 ページ)	必要のない事前展開済みの VM を削除します。

## Cisco Integrated Management Controller を構成する

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) は、Cisco UCS アプライアンスの管理インターフェイスです。CIMC はアプライアンス内で実行され、Web または SSH コマンドライン アクセスを通じてアプライアンスのリモート管理、構成、監視を可能にします。

カスタマイズおよび事前設定された展開のために Business Edition 7000 アプライアンスで CIMC を設定するには、次のタスクを実行します。

Cisco Integrated Management Controller を設定するには、次のタスクを完了します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電源オンと初期 CIMC セットアップ (5 ページ)	
ステップ 2	CIMC 設定を完了する (6 ページ)	

### 電源オンと初期 CIMC セットアップ

この手順を使用してアプライアンスの電源を入れ、基本的な Cisco Integrated Management Controller (CIMC) 設定を開始します。

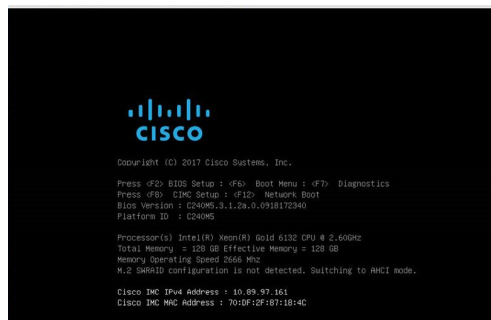
#### 始める前に

クイック スタート ガイドの説明に従って、Business Edition 7000 アプライアンスがラックに取り付けられていること、電源に接続されていること、データネットワークに接続されていること、モニタとキーボードがアプライアンスに接続されていることを確認してください。

### 手順

- ステップ 1 電源が接続されており、電源ボタンの LED がオレンジ色になっていることを確認します。
- ステップ 2 アプライアンスの電源ボタンを押して、緑色に変わることを確認します。
- ステップ 3 モニタで起動プロセスを監視します。
- ステップ 4 青い Cisco ロゴが表示されたら、**F8** を押して CIMC 設定ダイアログに入ります。

図 1: CIMC ブート画面で F8 キーを押します

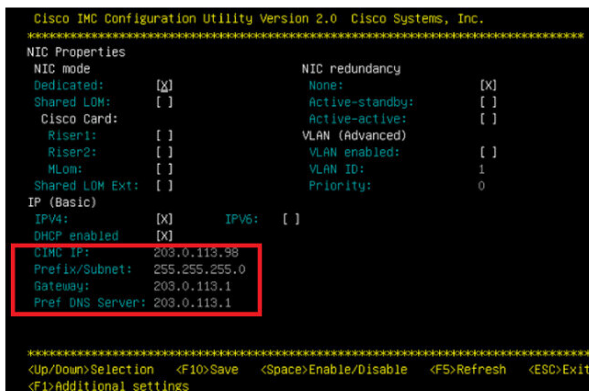


ステップ 5 プロンプトが表示されたら、ユーザ名 `admin` を入力し、新しいパスワードを作成します。

ステップ 6 CIMC 設定画面で、次の詳細を入力します。

- CIMC IP アドレス
- サブネットマスク (Subnet mask)
- ゲートウェイ IP アドレス

図 2: CIMC IP アドレスの詳細を入力します



ステップ 7 完了したら、**F10** キーを押して変更を保存し、システムを起動します。

## CIMC 設定を完了する

CIMC インターフェイスで DNS および NTP 設定を構成するには、この手順を使用します。

### 始める前に

サーバの電源を入れ、基本的な Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の設定を開始します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Web ブラウザで CIMC IP アドレスを入力し、ユーザ名 `admin` と前のタスクで作成したパスワードを使用してログインします。
- ステップ 2** 左側のメニューから、**[管理者]** タブを選択し、**[ネットワーク]** をクリックします。
- ステップ 3** メイン画面で、**[ネットワーク設定]** タブを選択します。
- ステップ 4** **[共通プロパティ]** から、**[ホスト名]** 設定を CIMC ホスト名に変更します。
- ステップ 5** **[IPv4 プロパティ]** から、**[優先 DNS サーバ]** を、DNS サーバに指定した IP アドレスに変更します。
- ステップ 6** メイン画面で、**NTP 設定** タブを選択します。
- ステップ 7** **[NTP 有効化]** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** **サーバ 1** フィールドに、NTP サーバの IP アドレスを入力します。
- ステップ 9** ページの右下隅から **[変更を保存]** を選択します。
- 

## VMware vSphere Hypervisor を構成する

VMware vSphere ハイパーバイザーをセットアップするには、次のタスクを完了します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	VMware vSphere ハイパーバイザーの Remote Access をカスタマイズします。	
<b>ステップ 2</b>	VMware vSphere ハイパーバイザーにアクセスして構成します。	

仮想化ソフトウェアの *Remote Access* をカスタマイズ

VMware Embedded Host クライアントを使用してお使いの PC からリモートアクセスできるように VMware vSphere ESXi をカスタマイズするには、次の手順を実行します。



- (注) BE7000 アプライアンスには、工場出荷時に ESXi 7.0 と vmfs6 がロードされています。vmfs バージョンを変更する場合は、アプリケーションサポートを確認し、アプライアンスを再構築する必要がありますのでご注意ください。
-

## 手順

**ステップ1** ハイパーバイザーが起動すると、次の図に示すように、ESXi ダイレクトコンソールユーザインターフェイスがモニタに表示されます。

図 3: ESXi のロード後のコンソール画面

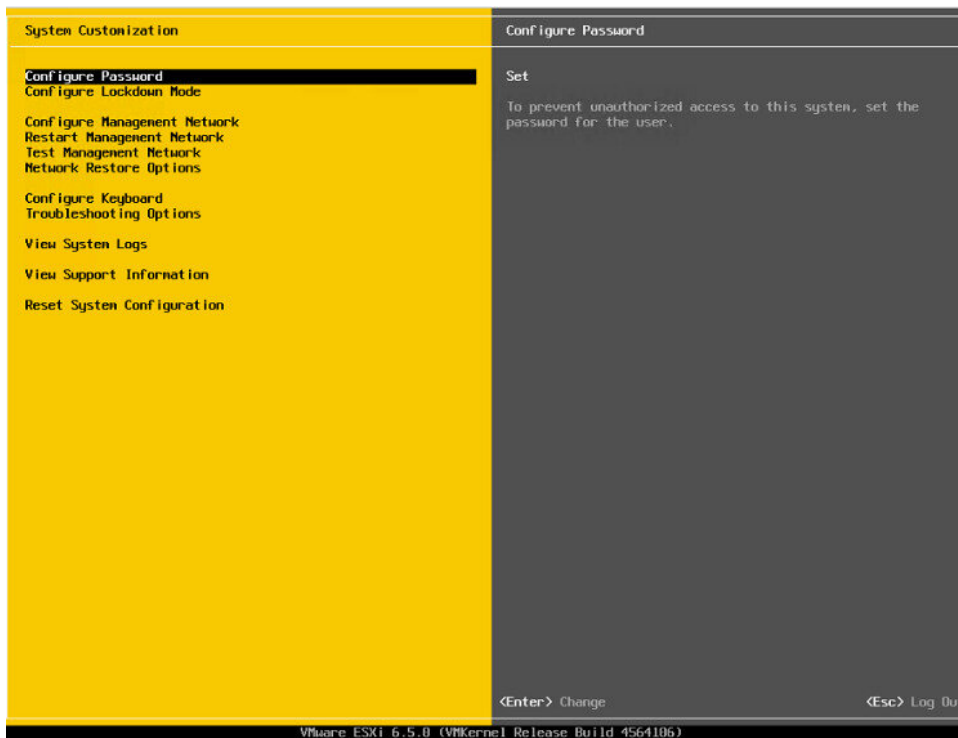


453856

**ステップ2** F2 キーを押して、次の図に示すようにシステム カスタマイズ メニューに入ります。

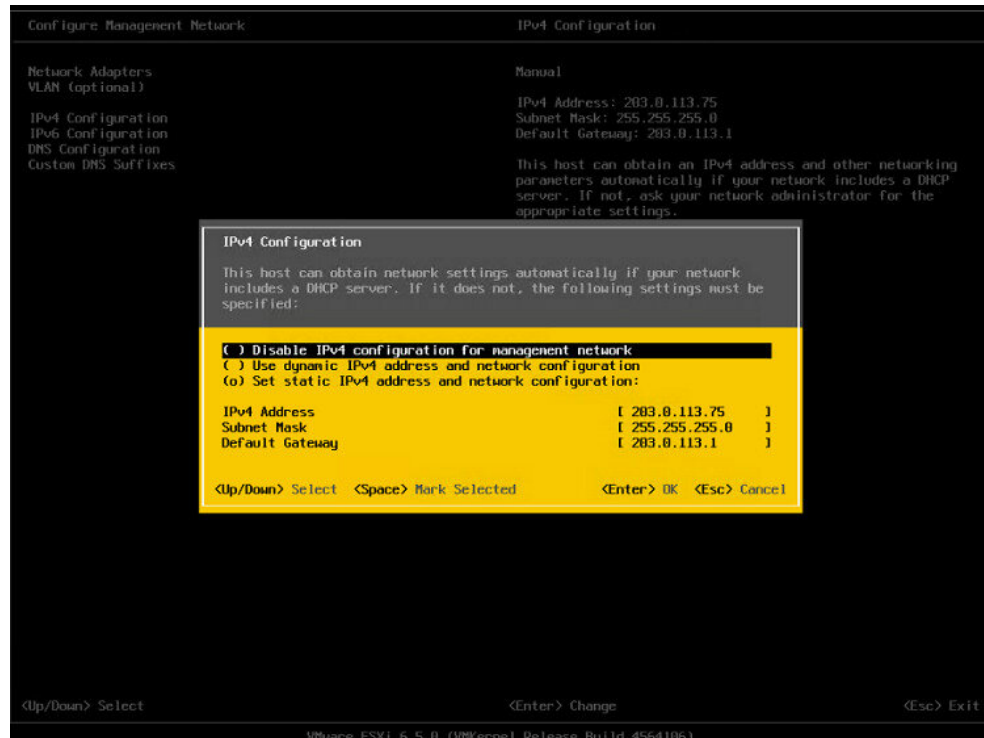
図 4: ESXi システムカスタマイズメニュー

デフォルトのユーザ名は root、デフォルトのパスワードは c!SCo123 です。



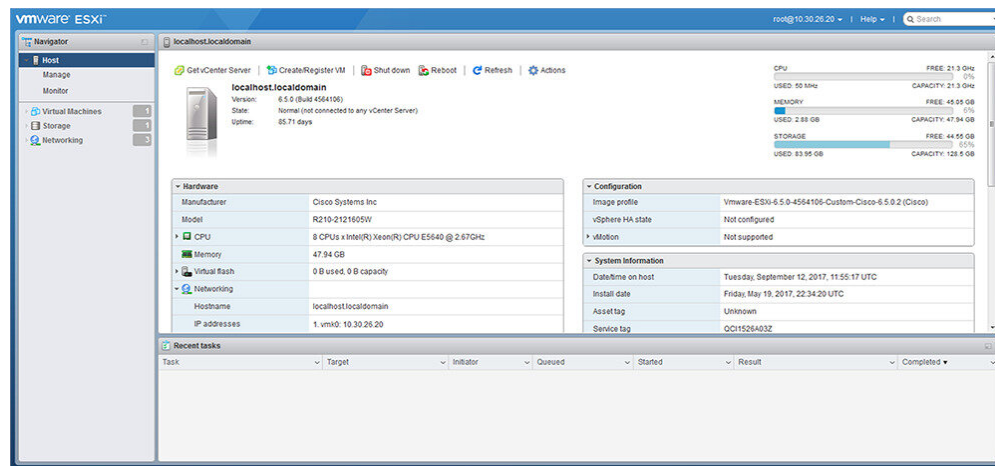
- ステップ 3** ログイン後、デフォルトのパスワードを変更する必要があります。パスワードを変更するには、[パスワードの設定] を選択します。
- アプリケーションが事前にデプロイされている場合は、5に進みます。
- ステップ 4** 静的 IP アドレスを割り当てるには、[管理ネットワークの構成] メニューを選択し、画面の指示に従って [「IP 構成」] を変更します。

図 5: ESXi ホストに静的 IP アドレスを割り当てる



ステップ 5 PC をデータ ネットワークに接続し、新しいハイパーバイザー IP アドレスを参照します。

図 6: ハイパーバイザーのウェルカムページ



## 仮想化ソフトウェアへのアクセスと構成

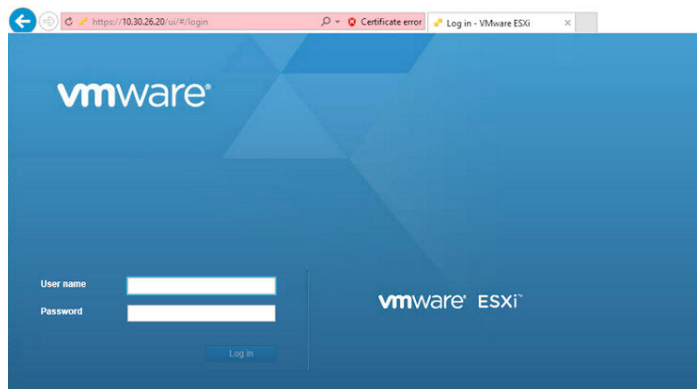
一部の Business Edition アプリケーションでは、ホストに有効な時間参照が必要です。次の手順に従って ESXi ホストにアクセスし、NTP を構成し、NIC チューミング機能を使用してネット

ワーク インターフェイス カード (NIC) のフォールト トレランスを構成し、プリインストールされたアプリケーションを表示し、データストアを参照してプリロードされたコラボレーションアプリケーションソフトウェアを確認します。

## 手順

**ステップ 1** VMware Embedded Host Client にアクセスするには、「https://[ESXI-HOST-IP-Address]/ui/」にアクセスします。

図 7: *VMware Embedded Host Client* を使用して仮想化ソフトウェアにアクセスする



**ステップ 2** 以前に設定したログイン資格情報を使用します。

**ステップ 3** 見積りに選択した場合、BE 7000 アプライアンスには、Cisco Business Edition Embedded Virtualization Basic Plus のコラボレーション組み込み OEM ライセンスが工場出荷時にロードされます。このライセンスを使用する場合は、すぐに使用できます。このライセンスを再アップロードまたはバージョンアップする場合は、次の手順を実行します。

- a) Cisco Business Edition Embedded Virtualization ライセンスのライセンス シリアル番号が記載されているライセンス ドキュメントを見つけます。インストールの場合、ライセンスのシリアル番号はアプライアンスとともに工場から出荷されます。バージョンアップグレードの場合、ライセンス シリアル番号は cisco.com の Cisco License Central から出荷されません。
- b) [管理]>[ライセンス]>[ライセンスを割り当てる]の順に選択します。
- c) ライセンス ドキュメントからライセンス シリアル番号を入力するか、コピーまたは貼り付けます。これらのライセンスを vCenter に追加しないでください。
- d) ライセンス キーを検証するには、[ライセンスの確認] をクリックします。

### (注)

組み込み仮想化ライセンスは、汎用 vSphere ESXi ライセンスやパートナー アクティベーションコード (PAC) と同じようには機能しません。これらは 2 つの CPU にハードコードされ、事前に統合されており、myvmware.com を通じて分割または拡張することはできません。これらは、VMware パートナー アクティベーションコード (PAC) でも Cisco 製品認証キー (PAK) でもありません。これらは事前にアクティブ化されており、myvmware.com または cisco.com で

の登録やアクティブ化は必要ありません。vCenter 経由のインストール、vCenter でのライセンスプール、または vCenter の機能はサポートされません。

詳細については、付録 A を参照してください。

#### ステップ 4 NTP 設定を構成します。

- a) **[管理] > [システム] > [日付と時刻]**の順に選択します。
- b) **設定の編集** をクリックして、**時間設定の編集** 画面を起動します。
- c) **[このホストで手動で日時を構成する]** チェックボックスをオンにします。
- d) 時間を更新します。
- e) **[ネットワーク タイム プロトコルを使用する (NTP クライアントを有効にする)]** チェックボックスをオンにします。
- f) **[NTP サービス スタートアップ ポリシー]** ドロップダウンで、**[ホストに合わせて開始および停止]** を選択します。
- g) **NTP サーバー** で NTP サーバーの IP アドレスを入力します。複数の NTP サーバを追加する場合は、NTP サーバの IP アドレスをコンマで区切って入力します。
- h) **[保存]** をクリックします。

#### ステップ 5 (オプション) VMware の NIC チーミング機能を使用してフォールトトレランスを構成します。

- a) **ネットワーク > 管理ネットワーク** に移動します。
- b) **[設定の編集]** をクリックして **[ポートグループの編集 - 管理ネットワーク]** を起動します。
- c) **ポートグループの編集 - 管理ネットワーク** 画面で、名前、VLANID、仮想スイッチを入力します。
- d) **NIC チーミング** を展開し、必要な詳細を入力します。
- e) **[保存]** をクリックして、データ ネットワークに接続されている NIC を追加します。

(注)

デフォルトでは、ハイパーバイザーに対して有効になっている NIC は 1 つだけであり、vnic0 として識別されます。

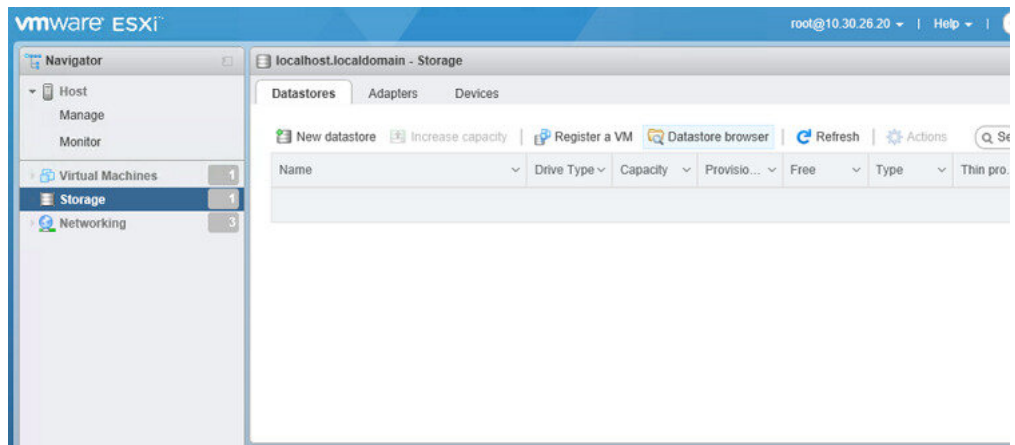
#### ステップ 6 データストアを参照します。

- a) **Business Edition アプライアンスのデータストアを一覧表示するには、[ストレージ] > [データストア]** に移動します。
- b) **データストア 1** を選択します。
- c) **データストア ブラウザ** をクリックします。プリロードされたコラボレーション仮想マシンとプリロードされたソフトウェアを表示できます。

(注)

データストアを作成するときに、VMFS6 ファイルタイプを選択する必要があります。

図 8: データストアを参照して、プリロードされたコラボレーション仮想マシンとプリロードされたソフトウェアを確認



**ステップ 7** (オプション) OVA-ISO ディレクトリをローカルにアーカイブすることをお勧めします。アップライアンスに障害が発生した場合、交換用ハードウェアにはプリロードされたコンテンツは含まれません。

## 使用されていない、または不要な仮想マシンを削除する

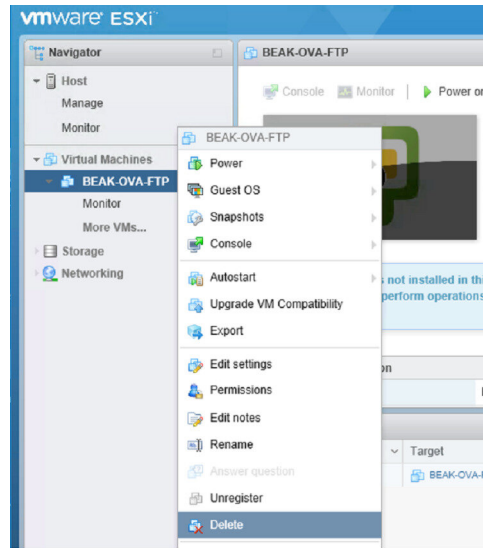
次のシナリオでは、必要に応じて、未使用または不要なプリロード済みファイルを削除してディスク領域を解放したり、後続のインストールのためのスペースを確保したりできます。

- 既存の工場出荷時にプリロードされたアプリケーションよりも新しいアプリケーションバージョンまたはパッチレベルをデプロイする場合。
- プリロードされた具体的なアプリケーションとそのファイルを実行したくない場合。

### 手順

**ステップ 1** VMware Embedded Host Client にログインします。

図 9: 使用していない VM を削除する



ステップ 2 仮想マシンを展開し、削除する仮想マシンを見つけます。

ステップ 3 VM に緑色の三角形がある場合は、アイコンを右クリックして [電源] > [電源オフ] を選択します。

VM の電源がオフになると、緑色の矢印は消えます。

ステップ 4 VM を右クリックし、[削除] を選択します。

ステップ 5 削除する仮想マシンごとにこの手順を繰り返します。

## アプリケーションをセットアップする

Cisco Business Edition 7000 アプライアンスでアプリケーションを設定するには、次のタスクを実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">仮想マシン OVA の展開 (15 ページ)</a>	インストールする UC アプリケーションごとに仮想マシン OVA を展開します。
ステップ 2	<a href="#">Cisco Unity Connection の仮想マシンをカスタマイズする (16 ページ)</a>	Business Edition 7000 の展開に Cisco Unity Connection が含まれている場合は、Unity Connection VM をカスタマイズします。
ステップ 3	<a href="#">アプリケーション ISO ファイルを仮想マシンに関連付ける (17 ページ)</a>	ISO ファイルが必要な UC アプリケーションのインストールの場合は、アプリ

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>セッション VM に ISO ファイルをマウントします。</p> <p>(注) ISO インストール ファイルを使用するアプリケーションの一覧については、アプライアンスのプリロード サマリーを参照してください。</p>
ステップ 4	ゼロタッチインストールを使用して UC アプリケーションをインストールする (18 ページ)	<p>これはオプションです。タッチレスインストールを使用して、次のコア UC アプリケーションをインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Manager</li> <li>• IM and Presence Service</li> <li>• Cisco Unity Connection</li> <li>• Cisco Unified Contact Center Express</li> </ul> <p>(注) 必要に応じて、これらのアプリケーションを手動でインストールすることもできます。</p>
ステップ 5	UC アプリケーションを手動でインストールする (23 ページ)	<p>残りの UC アプリケーションをインストールするには、手動の対話型プロセスを使用します。</p>

## 仮想マシン OVA の展開

各実行するアプリケーションには、プリロードされた仮想マシン OVA ファイルのいずれかが必要です。新しいバージョンを希望する場合は、既存のバージョンを削除することをお勧めします。

プリロードされたアプリケーションに応じて、OVA には次のいずれかのアプリケーションが含まれます。

- 完全にインストールされ、すぐに実行できるアプリケーション
- 部分的にインストールされたアプリケーション
- 空の仮想マシンの VM 構成のみ

詳細については、リリース ノートの「プリロード ファイルの概要」を参照してください  
<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html>。



(注) 空の仮想マシンを含む OVA テンプレート ファイルは数秒で展開されますが、部分的にまたは完全にインストールされたアプリケーションを含む大きな OVA ファイルは展開に時間がかかる場合があります。



注意 アプライアンスを再構築して ESXi 6x を使用する場合は、アプライアンスと組み込みの仮想化ライセンスが適切に動作していることを確認し、ESXi の Cisco UCS 固有のイメージを使用して ESXi 6.5 U2 以上が実行されていることを確認します。

## 手順

- ステップ 1 VMware Embedded Host クライアントで、**仮想マシン**に移動します。
- ステップ 2 **仮想マシン**を右クリックし、**[VMを作成して登録]**を選択します。
- ステップ 3 作成タイプとして、**OVF または OVA ファイルから仮想マシンを展開する**を選択します。
- ステップ 4 仮想マシンに意味のある名前を指定します。
- ステップ 5 PC 上のソース OVA テンプレート ファイルを参照して選択します。アプリケーションとファイル名のマッピングについては、データストアの OVA-ISO ディレクトリにあるビルドサマリー PDF を参照するか、ここからダウンロードしてください: <https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html>。
- ステップ 6 構成とディスク ファイルを保存するデータストアを選択します。
- ステップ 7 展開オプションを選択します。
- ステップ 8 ライセンス契約に同意するように求められたら、**[次へ]**をクリックして続行します。
- ステップ 9 展開オプションを選択します。
- ステップ 10 ディスクフォーマットの入力を求められた場合は、**Thick Provision Lazy Zero**を指定します。
- ステップ 11 ウィザードを終了する前に設定の選択を確認してください。
- ステップ 12 **[次へ (Next)]**をクリックします。
- ステップ 13 次のタスクに進む前に、すべての UC アプリケーション用の VM を展開します。

システムに Cisco Unity Connection が含まれている場合は、*Cisco Unity Connection* 用に仮想マシンをカスタマイズします。それ以外の場合は、アプリケーション ISO ファイルを仮想マシンに関連付けます。

## Cisco Unity Connection の仮想マシンをカスタマイズする

カスタマイズされたインストールの場合は、この手順を使用して Cisco Unity Connection 仮想マシンの設定を構成し、最適なパフォーマンスを確保します。

## 事前設定

### 始める前に

カスタマイズされたインストールの場合は、この手順を使用して Cisco Unity Connection 仮想マシンの設定を構成し、最適なパフォーマンスを確保します。 [仮想マシン OVA の展開 \(15 ページ\)](#)

## 手順

**ステップ 1** VMware Embedded Host クライアントで、仮想マシンに移動します。

**ステップ 2** **Unity Connection** エントリを右クリックし、**[設定の編集]**を選択します。

**ステップ 3** Unity Connection、Unified、または Integrated Messaging を使用する場合は、次の手順を実行します。

- a) **仮想ハードウェア** タブを選択します。
- b) **CPU** メニューを選択し、**ソケットあたりのコア数** を **2** に設定します。
- c) **[予約]** タブで、予約を **5.06MHz** に増やします。

詳細については、[https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/12x/supported\\_platforms/b\\_12xcucspl.html](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/12x/supported_platforms/b_12xcucspl.html) を参照してください。

## アプリケーション ISO ファイルを仮想マシンに関連付ける

次のいずれかの部分的にインストールされたアプリケーションを含むスキップインストール OVA を展開した場合は、この手順をスキップします。

- Cisco Unified Communications Manager
- IM and Presence Service
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Contact Center Express
- Cisco Emergency Responder

すぐに実行できる完全にインストールされたアプリケーションを含む OVA を展開した場合は、この手順をスキップします。

空の仮想マシンの VM 構成のみを含むその他すべての OVA ファイルについては、この手順を実行して、インストールを完了するために使用する ISO インストール ファイルを関連付けます。



- (注) アプライアンスのインストールファイルに関する最新リストについては、データストアの OVA-ISO ディレクトリまたは <https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html> のアプライアンスの「プリロードの概要」を参照してください。

## 手順

- ステップ 1 VMware Embedded Host Client で、UC アプリケーション仮想マシンを選択します。
- ステップ 2 [Edit] をクリックします。
- ステップ 3 仮想ハードウェア タブから、**CD/DVD ドライブ 1** を選択します。
- ステップ 4 **[CD/DVD ドライブ 1]** ドロップダウンリストから **[データストア ISO ファイル]** を選択します。
- ステップ 5 データストアを参照して、**アプリケーション ISO ファイル** を見つけます。
- ステップ 6 ファイルを選択し、**選択** をクリックします。
- ステップ 7 **CD/DVD Drive 1** の **[状態]** にある **[電源投入時に接続]** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8 ISO ファイルを含むインストールするアプリケーションごとにこの手順を繰り返します。

## ゼロタッチインストールを使用して UC アプリケーションをインストールする

タッチレスインストールを使用すると、インストールプロセスの実行中にシステムと対話することなく、必要に応じて異なるホストに複数の UC アプリケーションとアプリケーションの仮想マシンを同時にインストールできます。システムを準備する必要がありますが、特に複数のアプリケーションをインストールする場合は、タッチレスインストールによって時間を節約できます。1 つまたは 2 つのアプリケーションのみをインストールする場合は、次のセクションの手動手順に従うことをお勧めします。

タッチレスインストールを使用して、次のアプリケーションをインストールします。

- Cisco Unified Communications Manager
- IM and Presence Service
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Contact Center Express
- Cisco Prime Collaboration Deployment

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	回答ファイルの生成 (19 ページ)	UC アプリケーションの応答ファイル (AFG ファイル) を生成します。
ステップ 2	仮想フロッピーイメージを作成する (20 ページ)	AFG ファイルを使用して仮想フロッピーイメージを作成します。
ステップ 3	仮想フロッピーイメージをデータストアにアップロードする (21 ページ)	仮想フロッピー イメージをデータストアにアップロードします。
ステップ 4	仮想マシンに仮想フロッピーをマウントし、ブートオプションを設定する (21 ページ)	各仮想フロッピーを対応する UC アプリケーション VM にマウントします。
ステップ 5	ゼロタッチ インストールを実行する (22 ページ)	UC アプリケーションのタッチレスインストールを実行します。インストールを同時に実行することをお勧めします。

## 回答ファイルの生成

この手順を実行して、UC アプリケーションのタッチレスインストール用応答ファイルを生成します。



**ヒント** ファイルが混同されないように、生成されたファイルを保存するアプリケーション固有のフォルダー (たとえば、UCM、IMP、CUC、CCX) を作成することをお勧めします。

## 手順

- ステップ 1 <https://www.cisco.com/c/en/us/applicat/content/cuc-afg/index.html> のオンライン応答ファイルジェネレータにアクセスします。
- ステップ 2 **製品** ドロップダウンリストから、応答ファイルを生成する UC アプリケーションを選択します。
- ステップ 3 インストールする **バージョン** を選択します。
- ステップ 4 アプライアンスで設定するインストールの詳細を残りのフィールドに入力します。たとえば、パスワード、IP アドレス、DNS 設定などの項目を割り当てることができます。
- ステップ 5 **[回答ファイルの生成]** をクリックして、その UC アプリケーションの platformConfig.xml ファイルを生成します。  
各 UC アプリケーションは platformConfig.xml ファイルを生成します。Cisco Unified Communications Manager は clusterConfig.xml ファイルも生成します。

**ステップ 6** 生成された回答ファイルを次のように保存します。

- Cisco Unified Communications Manager の場合は、platformConfig.xml と clusterConfig.xml の両方のファイルを UCM フォルダに保存します。
- その他の UC アプリケーションの場合は、platformConfig.xml ファイルを関連するアプリケーション フォルダに保存します。

**ステップ 7** タッチレスインストールを使用する UC アプリケーションごとに、これらの手順を繰り返します。

## 仮想フロッピーイメージを作成する

この手順を使って応答ファイルから仮想フロッピーイメージを作成します。ゼロタッチインストールで仮想フロッピーイメージを使用します。



**ヒント** .flp ファイルには、推奨される命名規則に従うことをお勧めします。

### 始める前に

1. 仮想フロッピーイメージを作成するには、Winimage を使用できます。Winimage は次の場所からダウンロードできます <http://www.winimage.com/download.htm>。BFI などの他のツールを使用して、仮想フロッピーイメージを作成することもできます。
2. [回答ファイルの生成 \(19 ページ\)](#)

### 手順

**ステップ 1** Winimage で、[ファイル]>[新規] を選択します。

**ステップ 2** 標準フォーマットから **1.44 MB** を選択し、**OK** をクリックします。

**ステップ 3** UC アプリケーションの platformConfig.xml ファイルを Winimage ウィンドウにドラッグします。

**ステップ 4** Winimage にファイルを挿入するように指示されたら、[はい] をクリックします。

**ステップ 5** Cisco Unified Communications Manager のみ。clusterConfig.xml ファイルを Winimage ウィンドウにドラッグします。

**ステップ 6** [ファイル]>[名前を付けて保存] を選択します。

**ステップ 7** 次の命名規則を使用して、ファイルを仮想フロッピーイメージ (.flp ファイル) として保存します。

- Cisco Unified Communications Manager—ucm.flp
- IM および Presence サービス - imp.flp
- Cisco Unity Connection—cuc.flp

- Cisco Unified Contact Center Express—ccx.flp

**ステップ 8** タッチレス インストールを使用する UC アプリケーションごとにこの手順を繰り返します。

## 仮想フロッピーイメージをデータストアにアップロードする

この手順を使用して仮想フロッピーイメージをデータストアにアップロードします。

### 始める前に

仮想フロッピーイメージを作成する

### 手順

- ステップ 1** VMware Embedded Host Client を起動します。
- ステップ 2** [ストレージ] を選択します。
- ステップ 3** データストアを右クリックして、データストアを **参照** します。
- ステップ 4** 宛先ディレクトリに移動し、**アップロード** アイコンをクリックします。
- ステップ 5** vFloppy イメージを AFG フォルダーにアップロードします。
- ステップ 6** [アップロード/ダウンロード] 警告メッセージで [はい] をクリックします。
- ステップ 7** データストアブラウザ ウィンドウを閉じます。

## 仮想マシンに仮想フロッピーをマウントし、ブートオプションを設定する

この手順を使用して、対応する VM に UC アプリケーション仮想フロッピーイメージをマウントします。



(注) 事前に展開された VM はすでに構成されているため、この手順は必要ありません。

### 始める前に

仮想フロッピーイメージをデータストアにアップロードする

### 手順

- ステップ 1** VMware Embedded Host Client で、UC アプリケーション仮想マシンを選択します。
- ステップ 2** 仮想マシンを選択します。
- ステップ 3** [Edit] をクリックします。
- ステップ 4** 仮想ハードウェア タブから、**フロッピードライブ**を選択します。

- ステップ5 既存のフロッピー イメージを使用するを選択します。
- ステップ6 データストアを参照して仮想フロッピーイメージを見つけます。
- ステップ7 ファイルを選択して [OK] をクリックします。
- ステップ8 [ステータス] で、[電源投入時に接続] オプションを有効にします。
- ステップ9 VM オプション タブをクリックします。[ブート オプション] で、[BIOS セットアップを強制する] をオンにして、[保存] をクリックします。
- ステップ10 タッチレス インストールを実行する UC アプリケーションごとにこの手順を繰り返します。

## ゼロタッチ インストールを実行する

仮想フロッピードライブをアプリケーション VM にマウントしたら、ゼロタッチ インストールプロセスを実行します。すべてのタッチレス インストールを同時に実行することをお勧めします。



(注) VM が事前にデプロイされている場合は、手順 6 のみを実行する必要があります。

### 手順

- ステップ1 VMware Embedded Host クライアントで、VM を右クリックし、[コンソール] > [新しいウィンドウでコンソールを開く]の順に選択します。  
コンソールウィンドウが開きます。
- ステップ2 コンソール ツールバーの [パワーオン] アイコンをクリックして、仮想マシンの電源をオンにします。
- ステップ3 BIOS 画面が表示されたら、次の起動順序を設定します。
  - a) CD-ROM
  - b) ハードドライブ
  - c) リムーバブルデバイス
  - d) ネットワーク
- ステップ4 設定を保存してコンソールを終了します。  
UC アプリケーションのインストールがすぐに開始されます。
- ステップ5 インストールする UC アプリケーションごとにこれらの手順を繰り返します。
- ステップ6 インストールが完了したら、仮想マシンから vFloppy 構成を削除します。

## UC アプリケーションを手動でインストールする

この手順を使用して対話型インストールプロセスに従い、Cisco Emergency Responder などのタッチレスインストールオプションがない UC アプリケーションをインストールします。

### 手順

- 
- ステップ 1** vSphere Client で、インストールするアプリケーションの VM の電源をオンにします。
- ステップ 2** VM を右クリックし、[コンソール]>[新しいウィンドウでコンソールを開く]の順に選択します。  
コンソール ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 画面の指示に従って、コンソールからアプリケーションをインストールします。
- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence Service の両方を手動でインストールする場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのインストールが完了したら、次の手順を実行します。
- a) VMware Embedded Host コンソールから、Cisco Unified Communications Manager CLI にログインします。
  - b) `set network cluster subscriber dynamic-cluster-configuration 24` コマンドを実行します。
  - c) IM and Presence またはサブスクリバラー仮想マシンの VMware Embedded Host コンソール ウィンドウを開きます。
  - d) 仮想マシンをパワーオンします。
  - e) アプリケーションの構成情報を入力してインストールを完了します。
- ステップ 5** インストールする UC アプリケーションごとにこの手順を繰り返します。
-

■ UC アプリケーションを手動でインストールする

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。